

伝統を守ろうとする姿に敬意を

毎年行われてきた地域の伝統行事が、感染症拡大防止のためとはいえ、中止となってしまったことは本当に残念でなりません。

事実か定かではありませんが、75年前の終戦直後の8月15日も、自粛すべきか住民の間で意見が割れていた中で、青年たちが密やかながら鹿ん舞を奉納したと伝え聞いています。

今回も、地域の有志の方々が、立ち上がり、後世に伝統文化を守り継ごうと尽力される姿は、本当に素晴らしいことだと感じています。



浅間神社 宮司 山下 慎吾 さん

四十数年の時を経て 再び舞った男たち



かつては成人を迎えた男性が化粧をして踊っていた

「地域の伝統行事ができな
いことは本当に寂しい。自分
たちが盛り上げられれば」と
話したのは、勝手に鹿ん舞の
発起人である澤本等さん（徳
山区）。澤本さんは、毎年欠
かさず行われてきた風物詩が

途切れてしまうことに危機感
を感じ、何かできないかと同
級生らを中心に、同志を募りま
した。
呼びかけに応えた方たちは
口々に「年齢的にも、体力的
にも今回限り。地域の人たち
に、我々の姿と心意気をぜひ
とも見て欲しい」と力強く話
し、お囃子の軽快なリズムに
合わせて舞を披露しました。
住民らは練り歩く一行の雄
姿に、歓声と大きな拍手を
送っていました。
かつて成人を迎えた年に
踊った経験のある牡鹿役の
直里幸男さんは「いい汗がか
けてすごく気持ちよかった。
仲間たちと一緒に踊ることが
できて大満足です」と笑顔で
話しました。



鹿ん舞一行 浅間神社にて



1_かつてのように化粧をして 2_太鼓や笛の音でもり立てるお囃子 3_助っ人として参加した若衆の西田裕さん(左)と小澤成芳さん(右) 4_お化粧をして準備万端の鹿役ら 5_飛び入りで一緒に踊ってご満悦 6_グループホームまつおかの皆さんと一緒に 7_鹿を追い立てる個性的なひよっとこたち 8_炎天下の中、ほっと一息

コロナ禍の酷暑 威勢よく舞った男たちの雄姿

徳山道行

勝手に鹿ん舞

徳山地区で、毎年8月15日に浅間神社の例祭にあわせて奉納される国指定重要無形民俗文化財「徳山の盆踊」が、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。それでも地元の伝統を絶やさない有志の方々が奮起。この日、16人の住民が集結しました。
うだるような暑さの中で、行われた「勝手に鹿ん舞」の様子を写真で紹介します。

